

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※  
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

2022年度 事業報告

自 2022年 4月 1日  
至 2023年 3月31日

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の事業概況についてご報告いたします。

[1] 芸術文化や厚生福祉等に対する助成（公益目的事業 1）

(1) 厚生文化事業金銭助成

金銭助成は、上半期と下半期を合わせて19件の申請を受け付けました。

上半期には、特定非営利活動法人高知県断酒連合会他6団体に121万円の助成を行いました。同様に下半期は、寺家（じげ）風土記編集委員会他7団体に122万円の助成をおこないました。

結果、助成件数は前年比4件減、助成金額は53万円増となりました。

上半期：高知新聞 2022年3月30日付に掲載

下半期：高知新聞 2022年9月29日付に掲載

(2) 名義助成

「四国フィルハーモニー管弦楽団演奏会 ファミリーコンサート in つないで」、  
「こうち未来基金設立シンポジウム」に名義助成を行いました。

[2] 地方史の調査・研究に対する賞の贈呈（公益目的事業 2）

(1) 平尾学術奨励賞の贈呈

第43回平尾学術奨励賞は「該当なし」として授賞を見送りました。

高知新聞 2022年5月14日付に掲載

[3] 新進音楽家の顕彰及び音楽賞の贈呈（公益目的事業 3）

(1) 高知音楽コンクールの開催

下八川圭祐記念 第46回高知音楽コンクールは11月3日、高知県民文化ホールで行われ、各賞を選出、賞状・副賞を送りました。

出場者は23人（一般・大学生15人、高校生8人）で、参加者数は前年度比1人減となっております。

高知新聞 2022年11月4日付に掲載

(2) 「交流の響き」への派遣

前年度上位入賞者を派遣している「交流の響き2022」（神奈川新聞など主催/高知新聞社共催）が9月24日に開催され、第45回コンクールで下八川賞2位を受賞したバイオリン奏者の門田智子さんが出場しました。

高知新聞 2022年9月25日付に掲載

[4] 災害時における義援金の取扱い（公益目的事業 4）

(1) 災害時における義援金の取扱い

今年度の災害における義援金の取扱い業務はありませんでした。

[5] 記念事業の実施（公益目的事業 5）

新型コロナウイルス感染症の社会情勢に加え、周年等記念にあたる公益目的事業はなく行いませんでした。

[6] 各賞の受賞者等のための食事会の開催（その他の事業 1）

高知音楽コンクールにおいては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合せました。

[7] 公益信託に関する業務の委託（その他の事業 2）

(1) 「高知新聞・高知放送」『生命（いのち）の基金』（以下、「生命の基金」）寄付金受入に関する業務

現金持参による寄付金受入は12件（うち個人1件、団体11件）、振込による受入は6件（うち個人3件、団体3件）ありました。寄付金総額は、388万4961円（内訳は個人260万円、団体128万4961円）です。

前年に比べて、受入数は2件増、寄付総額では192万円9158円増となっております。

(2) 補助業務

助成応募を告知する記事を作成し、6月25日と10月6日の2回、高知新聞紙上に掲載しました。また、助成を決定する記事は、3月24日に掲載しました。

「生命基金」助成する諮問委員会を1月17日、それを確定する運営委員会を2月21日に開催し、それぞれの会議に専務理事が出席しました。

3月29日に助成金贈呈式を実施しました。本年度の会場の高知県民文化ホール（第6多目的室）を手配し設営、受付業務や贈呈補助など行いました。

2022年度 事業報告付属明細書

[1] 芸術文化や厚生福祉等に対する助成（公益目的事業 1）

(1) 厚生文化事業金銭助成

〈上半期〉

申請件数:8件

◇ 事業を実施した団体

件名	団体名	助成金額
(公社)全日本断酒連盟 第57回断酒四国ブロック大会	特定非営利活動法人 高知県断酒連合会	200,000円
2022 ビキニデー in 高知	「2022ビキニデーin 高知」実行委員会	200,000円
戦争遺品・資料保存プロジェクト	平和資料館・草野家	250,000円
ケアメンいごっそう設立記念総会	ケアメンいごっそう	200,000円
幡多と共生するモノづくり職人展	宿毛まちのえき林邸	170,000円
第7回ジョン万次郎英語弁論大会	土佐ジョン万会	100,000円
第18回カズダンススクール発表会	カズダンススクール	90,000円
	合計	1,210,000円

# 高知新聞厚生文化事業団 2022年度春の助成7団体

(1面参照)

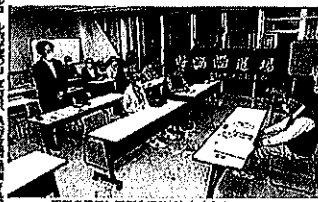
## 「ピキニデー」高知実行委員会 核被災の悲劇 伝えたい



3月の研修へ参加を促す「ピキニデー」高知実行委員会(高知市の高知ホール)

「ピキニデー」高知実行委員会は、核被災の悲劇を伝えたいと、3月に高知市高知ホールで研修会を開催した。参加者は、核被災の現状や、被災者の苦しみについて学び、今後の活動について話し合った。実行委員会の代表者は、核被災の悲劇を伝えたいと、研修会を開催した。参加者は、核被災の現状や、被災者の苦しみについて学び、今後の活動について話し合った。

## NPO法人「県断酒連合会」 依存症からの回復啓発



回復を目標として参加した人たち(高知市高島4丁目の市東部生涯学習センター)

NPO法人「県断酒連合会」は、アルコール依存症からの回復を啓発するために、高知市高島4丁目の市東部生涯学習センターで研修会を開催した。参加者は、回復の目標や、回復のための方法について学び、今後の活動について話し合った。連合会の代表者は、回復を目標として参加した人たちに、回復を促すことを目指している。

## ケアメンいごっそう 男性介護者の輪広げる



独立系介護者のオラシ生甲にケアメンいごっそうの研修会(高知市)

「ケアメンいごっそう」は、男性介護者の輪を広げるために、高知市で研修会を開催した。参加者は、介護の現状や、介護者の苦しみについて学び、今後の活動について話し合った。研修会の代表者は、男性介護者の輪を広げたいと、研修会を開催した。参加者は、介護の現状や、介護者の苦しみについて学び、今後の活動について話し合った。

## 平和資料館・草の家 戦禍物語る資料後世に



歴史や資料を学ばせよう(高知市舟町の「草の家」)

平和資料館・草の家は、戦禍を物語る資料を後世に伝えるために、高知市舟町の「草の家」で研修会を開催した。参加者は、戦禍の歴史や、戦禍の被害について学び、今後の活動について話し合った。資料館の代表者は、戦禍を物語る資料を後世に伝えたいと、研修会を開催した。参加者は、戦禍の歴史や、戦禍の被害について学び、今後の活動について話し合った。

## カスダンススクール



カスダンススクールの発表会が、高知市で開催された。参加者は、ダンスの楽しさや、ダンスの魅力を学び、今後の活動について話し合った。スクールの代表者は、ダンスの楽しさを伝えたいと、発表会を開催した。参加者は、ダンスの楽しさや、ダンスの魅力を学び、今後の活動について話し合った。

## 踊りの原点全身で表現

## 土佐ジョン万会



土佐ジョン万会は、英語スピーチ大会を開催した。参加者は、英語の楽しさや、英語の魅力を学び、今後の活動について話し合った。会の代表者は、英語の楽しさを伝えたいと、大会を開催した。参加者は、英語の楽しさや、英語の魅力を学び、今後の活動について話し合った。

## 挑戦続ける国際人育成

## 宿毛まちのえき林邸



宿毛まちのえき林邸は、歴史を研究するために、高知市で研修会を開催した。参加者は、歴史の楽しさや、歴史の魅力を学び、今後の活動について話し合った。林邸の代表者は、歴史を研究したいと、研修会を開催した。参加者は、歴史の楽しさや、歴史の魅力を学び、今後の活動について話し合った。

## 幅多の歴史と魅力発信

〈下半期〉

申請件数:11件

◇ 事業を実施した団体

件名	団体名	助成金額
寺家風土記	寺家風土記 編集委員会	60,000円
第1回ヘルプマン大会議	ヘルプマン大会議in 高知実行委員会	200,000円
牧野富太郎伝①草僕の人②草を褥に	劇団 the・創	200,000円
朗読技能向上を図る講習会と 朗読会の実施	朗読サークル潮騒	160,000円
「夢見る小学校」映画上映と地元の 食材でお菓子作り	一社 しまんとのわ	150,000円
沖縄の風〜ちむどんどんコンサート	さくらの里すくも 音楽祭実行委員会	100,000円
生きる、食べる、つながり続ける	はっこうじゅんかん クラブ	110,000円
スピリチュアルケア提供者養成研修	一社 高知がん患者 支援推進協議会	240,000円
	合計	1,220,000円

# 高知新聞厚生文化事業団 2022年度秋の助成8団体

(1 団体の紹介)

「ヘルプマン大会 in 高知」実行委員会  
 介護の魅力 再認識を

12月のイベントに向け準備を進める実行委員会のメンバー(高知市明成会の高立(左)と支援スタッフ)



12月のイベントに向け準備を進める実行委員会のメンバー(高知市明成会の高立(左)と支援スタッフ)

「ヘルプマン大会 in 高知」実行委員会  
 介護の魅力 再認識を

12月のイベントに向け準備を進める実行委員会のメンバー(高知市明成会の高立(左)と支援スタッフ)

寺家風土記編集委員会  
 地域の歴史、再発見

寺家地区の歴史を掘り出し合う編集委員会(寺山町寺家の寺家公民館)



寺家地区の歴史を掘り出し合う編集委員会(寺山町寺家の寺家公民館)

朗読サークル「潮騒」  
 「読む」猛烈に楽しくなる

読者の心を揺るがす朗読の魅力を再発見する朗読サークル「潮騒」のメンバー(高知市中央図書館)



読者の心を揺るがす朗読の魅力を再発見する朗読サークル「潮騒」のメンバー(高知市中央図書館)

朗読サークル「潮騒」  
 「読む」猛烈に楽しくなる

読者の心を揺るがす朗読の魅力を再発見する朗読サークル「潮騒」のメンバー(高知市中央図書館)

劇団「the・劇」  
 牧野博士の演劇上演へ

「牧野博士」の上演に向け練習する劇団「the・劇」のメンバー(高知市)の22日(高知市中央図書館)



「牧野博士」の上演に向け練習する劇団「the・劇」のメンバー(高知市)の22日(高知市中央図書館)

さくらの里 すくも音楽祭実行委員会  
 “ちむどんどん”する時間を

本郷に開催される音楽祭の準備を進める実行委員会のメンバー(高知市中央図書館)



本郷に開催される音楽祭の準備を進める実行委員会のメンバー(高知市中央図書館)

さくらの里 すくも音楽祭実行委員会  
 “ちむどんどん”する時間を

本郷に開催される音楽祭の準備を進める実行委員会のメンバー(高知市中央図書館)

しまんとのわ  
 SDGsで地域再生を

SDGsによる地域再生の取り組みを進めるしまんとのわのメンバー(高知市)



SDGsによる地域再生の取り組みを進めるしまんとのわのメンバー(高知市)

高知がん患者支援推進協議会  
 寄り添う人増やしたい

がん患者の生活を支えるための活動を進める協議会のメンバー(高知市)



がん患者の生活を支えるための活動を進める協議会のメンバー(高知市)

高知がん患者支援推進協議会  
 寄り添う人増やしたい

がん患者の生活を支えるための活動を進める協議会のメンバー(高知市)

はっこうじゅんかんクラブ  
 食、農、人つなげたい

食と農と人を繋ぐ活動を進めるはっこうじゅんかんクラブのメンバー(高知市)



食と農と人を繋ぐ活動を進めるはっこうじゅんかんクラブのメンバー(高知市)

2022年(令和4年)9月29日付 高知新聞

## 厚生文化事業金銭助成

	1992年(H5)年度～
◇累計件数	
申請	1274件
助成	500件
◇助成金額	
厚生文化事業	86,279,774円
高新大賞	29,400,000円





(2) 「交流の響き」への派遣

2022年(令和4年)9月25日付  
高知新聞



[7] 公益信託に関する業務の委託(その他の事業 2)  
(2) 補助業務

**助成申し込み受け付け**

**7月1日～10月31日**

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」は、2022年度の助成申し込みを真内から広く受け付けます。

難病や重い障害への支援・医療研究、地域社会での顕著な貢献活動などが対象。運営委員会の審議を経て、来年3月に贈呈します。「生命の基金」の助成は1989年の発足以来、多くの患者の人々からの浄財を蓄に行われていきます。

本年度から助成対象期間が2年間に延びました。奮って応募ください。

【募集期間】7月1日(金)～10月31日(日) 郵送・当館印有効

【助成対象期間】2023年4月1日～25年3月31日

【助成対象者・団体】①高知県内の大学・専門学校

校・病院等医療機関の上記所属の研究者(高知県内)で助成対象事業のサポートを行う団体

【助成金額】1件当たり上限1万円(総額1千万円程度)

【申し込み問い合わせ】高知新聞放送会館の受付にある所定の用紙に資料を添えて、三善UPJ信託銀行レール受託業務部(TEL0001中野区中野3の36の16、電話0120-623372)まで提出(助成金申請書は必ず本年度の様式を使用のこと)

※募集要項、助成金申請書は「生命の基金」ホームページ(www.life-fund.jp)からダウンロードできます。

※助成対象事業、対象活動、成果の報告などは募集要項を参照してください

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」

2022年(令和4年)6月25日付 高知新聞

**高知市 26件 1010万円助成 生命の基金 22年度贈呈式**

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」受託者三善UPJ信託銀行の2022年度の助成金贈呈式が20日、高知市の県民文化ホールで行われ、26件に計1010万円が贈られた。同基金は医療の充実と振興を図る目的で1989年に設立。難病や障害者の方々や支援者、医療従事者などに携わる人々を助成対象としている。

2021年度までに31件、計1435万円を助成しており、22年度の基金の価値は累計1億6039万円。

贈呈式で、運営副運営委員長が2年々贈呈し、今年も22年度は過去最多の44件、総額1010万円、各種団体員を讃状を呈呈した。

助成を受けた廣夫大幸、藤澤孝雄研究の佐々木康介さん(28)は、災害派遣医療チーム(DMA)について調査する。福島の原発事故後の救済から関連の防止へと変わりつつあるという「国民の安心安全な生活」に向け、国の保健医療の進歩と福祉の向上に寄与できると努力すると目標を述べた。

(高知市報)

助成対象者に目標が与えられた「生命の基金」助成金贈呈式(高知市本町4丁目)

2023年(令和5年)3月30日付 高知新聞